

全国高校生自然環境サミット

全国高校生自然環境サミットが群馬県沼田市で7月27日～7月29日の3日間行われ、本校の生徒2名が参加しました。全国高校生自然環境サミットは、環境学習に積極的な取り組みをしている全国の高等学校の生徒が、「自然との共生」をメインテーマとして、自然との豊かな触れ合いを体験し、自然と人間とのかかわりについて考えることを趣旨として行われました。

活動内容は、主にフィールドワークとワークショップです。生徒は尾瀬国立公園の尾瀬ヶ原や吹割の滝でフィールドワークを行いました。また、最終日には「自然との共生」について考えをグループで共有し、一人ずつ考えをまとめ、発表する活動をしました。

参加した生徒は、

□ いろいろな人と議論すると考えを共有できて、楽しかったし大変勉強になった。

□ 各地で起きている問題を知ることができてよかった。

というように、様々な学びが多かったと話していました。



大迫力な吹割の滝



広大な湿地が広がる尾瀬ヶ原



ワークショップの様子

実は、このサミットの発祥は、ここ唐津青翔高校です。23年前に当時唐津青翔高校前進の唐津北高校が尾瀬高校と四万十高校の生徒を招待し、環境学習について発表しあう会を開いたことが、このサミットが行われるきっかけとなりました。いわゆる、第0回高校生自然環境サミットです。以後、全国各地でこのサミットが行われ、第5回は呼子と有明海をフィールドに開かれました。

本校の自然科学系列はこの流れを汲んでいます。周囲には海や山があり、自然を学ぶため環境が整っており、尾瀬ヶ原や吹割の滝のようなそこにしかない自然が本校の近くにもあります。私たち職員も、この環境に感謝をし、この最高の環境で生徒たちがおもいきり学ぶことができる学校にしていきたいと思えます。



フィールドワークの様子



本校舎の廊下から見た風景



佐賀県東松浦郡浜野浦の棚田